

研究通信

2023年（令和5年）5月

第1号

授業研を通して

今年度初めの研究授業。提案してくださった、山岡先生・山田先生ありがとうございました。また、参観された先生方、振り返りをありがとうございました。先生方の意見をまとめさせていただきました。今後の授業の参考になれば幸いです。

3A 算数「わり算」 山岡先生

○具体物があることで一人一人が課題に向かって考えを深めたり、広げたりすることができていた。（子ども達が課題を認識して取り組んでいた。）また、教師側からテープを渡すのではなく、子どもが気付くような仕掛け（準備）をすることで、発見した喜び+本時の学びへの意欲へとつながっていた。

○「待つ」ことの大切さ

- ・ひとりひとりを認めることの意味と子ども達との人間関係をつくり、子ども達との信頼をしっかりとち任せる授業を。
- ・子ども達から引き出すことができるように。
- ・子ども達の探究心を大切に。

⇒どうして「待つ」ことができないのだろう？

⇒ただ「待つ」のでいいのだろうか？なんのために「待つ」のか？

☆方法ばかりに目が奪われがちだが、目的を見失わないようにしていきましょう！！

（ぜひ、SEKAI NO OWARI の「RPG」の歌詞を見てください。）

5A 社会「国土の気候の特色」山田先生

○楽しく学べる授業。クイズ形式とはいえ、理由を説明できるようになることを大事にされていた。そのために、キーワードを共有しておくことがいいなと思いました。

○子ども達が学ぶための手段である ICT の活用方法。

○評価の観点を明確にしたうえで、授業をしていくために、教材研究の大切さを痛感しました。

○自分自身で課題を見つける子どもを育てることも大切。

○雨温図は難しいがそんな中でも一生懸命動いて考えている子どもの姿が見えた。グラフの中にあること以外（季節風・地形）も考えなければならず、そこに難しさがあると思った。気付けている児童の発言等を拾って、他の児童にシェアしていくのが教師の役目なのかなと思いました。

⇒きっと知識のつながりが生まれたとき、新たな気付きへとつながっていく。そのために、私たちは何をしたらいいのだろうか？（教師の役割）

～全体を通して～

○教材研究を教師個人から集団で共有・協議できる場はとても大切。授業者から刺激を受け、自分の授業のアイデアへとつながる。（自然と教科・学年の枠を超えた教材研究につながる。）

○教科や単元の「本質的な問いとは何か」ということを捉えられるような教材研究を目指したい。授業をする中で「子どもがその本質にせまることができているのか？」という視点を明確にして授業を観れるようになっていきましょう。（子どもが何を学ぶかは多岐に渡るので、1つの視点にとらわれすぎないようにしたいですね。）

○子ども達は教師が思った以上に柔軟に考えていきます。その面白さを子ども達と共有しながら授業づくりをしていしましょう。一人一人の力はすごいです。そのすごさに教師が驚き、みんなで共有し、楽しむことで、子ども達も安心して学んでいけるのではないのでしょうか？